様式３

学校番号 特１

令和６年度　学校評価書　（計画段階）

福岡県立築城特別支援学校

学　校　運　営　計　画　（４月）

学校運営方針	個々の教育的ニーズに応じた適切な指導を通して、そのもてる力をバランスよく最大限に伸ばすとともに、健康な心と体を育む。併せて障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服する力を育て、将来の自立と社会参加に向かって生きる児童生徒を育成する。		評価（総合）
前年度の成果と課題	**年度重点目標**	**具体的目標**	
安全安心な環境で充実した教育活動を行えた。ICTの更なる活用を通して児童生徒の学習改善や業務の効率化を図る。危機管理マニュアルの改善と周知徹底を図り、緊急時シミュレーションを定期的に行い、児童生徒の安全が確保できるようにする。本校独自の取組である「築城モデル」をブラッシュアップするとともに、「築上町モデル」の作成に向けて地域との連携を図る。	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応える	① 最適な教育課程の編成に努めるとともに、児童生徒のニーズに応じたICT機器の活用と授業力の向上を図る。 ② 進路実現や社会参加のために進路先や職場の開拓に積極的に取り組むとともに、進路に関わる早期からの情報発信に努める。また、発達段階に応じたキャリア教育を推進する。 ③ 少し困難な目標設定と過不足のない支援を追求することにより、児童生徒の自己指導能力を促進するとともに、自己肯定感の向上を目指す。	
	児童生徒が安全に、安心して学べる	① 自他の人権を守り、自分や他人の心と身体を大切にする意識を高めるため、人権教育と性に関する指導を推進する。併せて、いじめや不登校等の未然防止と改善に努める。 ② 危機管理マニュアルや個別の緊急対応マニュアルを随時見直し、定期的に訓練を実施して有事に備える。 ③ 重度重複障がいのある児童生徒に対し、接食指導や医療的ケア等の安全な実施に努める。	
	保護者や地域から信頼を得る	① 保護者、医療、福祉、労働機関等との連携を深めるとともに、ケース会議等を通して児童生徒に関する情報共有を図り、居住地域や家庭における健全育成に資する。 ② 地域のセンター的役割を果たすために相談支援事業を充実させる。また、ホームページ等で積極的に情報発信を行い、本校の教育活動の理解及び特別支援教育全般に対する啓発を図る。 ③障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が、互いに理解し合い認め合うことができるように交流及び共同学習を活性化するとともに、積極的に地域に根差した活動を充実させる。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
教育運営部	・児童生徒の障がいの特性や課題に応じた教育課程の編成、柔軟で適切な学習グループ編成について検討し、効果的な教育活動を推進する。 ・児童生徒の学習改善を効率的に行えるようなICT機器の活用方法を模索する。 ・情報化の進展により、誤った情報や作為的に加工された情報によって児童生徒が被害にあうことや、加害者になってしまうことを未然に防ぐ。	本校の目指す児童生徒像に沿った教育課程の見直し及び年間指導計画等を作成する。		
		ICT活用推進担当者を中心とした、授業場面におけるICT機器活用事例の情報発信を行う。		
		ICT活用推進担当者と道徳教育推進教師を中心とした、情報モラル教育を推進する。		
	・校務NW、新生徒NWの環境を整備し、業務の安定化に努める。 ・ICT機器の管理を徹底し、教育活動でのICT活用を推進する。 ・学校ホームページの充実とSNSを活用した教育活動についての情報発信を行う。	学校ネットワークの安定及びデータの紛失・漏洩防止を目的とした情報機器の管理を徹底する。		
		校内職員へ対する、ICT機器の使い方や効果的な活用方法などの実用的な情報を提供する。		
		学校ホームページの充実及びSNSを活用した教育活動の情報発信を行う。		
教育指導部	・集団活動における自主性と自己指導能力を育成する。 ・危機管理マニュアルの改善と訓練等による周知徹底を図る。 ・安全な通学のための関係者との連携を行う。	各集会や学校行事等を通して、本校児童生徒としての自覚、責任、誇りを育てる。		
		危機管理マニュアルの改善、周知徹底を図り、緊急事態発生時に児童生徒の安全が確保できるようにする。		
		通学バスの利用や自主通学についての安全確認や安全対策についての周知徹底を図る。		
	・児童生徒の健康管理の充実と緊急時の体制整備を図る。 ・健康・安全な教育活動の充実を図る。 ・安全で楽しい学校給食の実施、食に関する指導の充実を目指して、各部門、学部、グループとの間で必要な調整を行う。	各学部・グループ毎に、学期に1回以上の緊急時シミュレーションを計画し、実施する。		
		再調理の調査、補助食器の準備、食の安全に関する情報提供を定期的に行う。		
		週に一回の職員清掃や隔月の安全点検が確実に行われるよう、職員への周知と促しを行う。		
支援連携部	・希望する進路実現に向け、進路先の開拓及び関係諸機関との連携に努める。 ・小学部から高等部まで一貫したキャリア教育の充実を図る。 ・保護者を対象にした研修会や早期からの情報提供等を通して、進路意識を高める	生徒の実態に応じた産業現場の実習等を実施する。		
		「ついきモデル」を活用し、各キャリア発達段階に応じた挨拶の学習を計画・実施する。		
		保護者や地域に早期から有効な進路情報の提供をする。		
	・PTAや地域などの外部の関係機関と積極的に連携を図り、学校の活性化を推進する。 ・働きやすい環境づくりに努める。	PTA、同窓会との連絡調整を密に行い、その円滑な運営を支援する。		
		地域、関係機関、ボランティアとの連携協力を図り、学校教育活動の活性化を推進する。		
		働きやすい環境づくりのため、職場環境の整備や充実を図る。		
研修部	・研究主題に基づいた学校研究の推進と校内研修の充実を図る。 ・初転任者研修の内容の充実と、学校全体での組織的な支援体制の構築に努める。 ・校内研修会や参考書籍の案内等を通した教員の専門性の維持・向上を目指す。	ベテラン教員等の支援体制を生かすとともに、グループ協議を推進し、授業改善に取り組む。		
		教員のキャリアステージやニーズに応じた研修を実施する。		
		自己研修に資するため、各種研修会の積極的な案内や受講の推進、調整を行うとともに、参考資料の蓄積や紹介を行う。		
	・校内及び校外への支援の充実に努める。 ・関係機関との連携及び地域資源の情報収集と発信を行う。 ・教職員の人権意識の向上と人権教育の充実を図る。	児童生徒理解を深めるとともに、基礎的、実践的な指導力向上を目指した研修の内容を設定し、研修形態を工夫する。		
		関係機関や他課と連携して情報収集と更新を行い、特別支援教育や変化する地域資源に関する情報を継続的に提供する。		
		人権意識の日常化を目指し、人権教育に関する情報を定期的に発信する。		
知的障がい教育部門	・基本的生活習慣の確立及び体力と健康の維持増進を図るための学習計画を立案し実施する。 ・ 児童生徒に対する適切な関わりと安全・安心な学習環境づくりを推進する。 ・ 障がい特性の理解を踏まえた児童生徒の適切な実態把握と的確な目標設定及び評価を行う。	小：連絡帳等で指導内容・方法を説明して家庭との協力体制を構築し、学校の指導と家庭生活と関連をさせる。		
		小：教科横断的な視点でコミュニケーション指導に取り組むとともに、他クラスや異学年と交流する場を多く設定する。		
		小：グループ会等で年間指導計画・単元指導計画を基に少し困難な目標設定と過不足ない支援を協議し、PDCAサイクルによる授業改善と指導事例の蓄積を行う。		
		中：家庭や関係機関と連携し、学習の様子や体調面について共通理解を図り、学習活動の中に活かすとともに、主体的に取り組める課題設定に努める。		
		中：学習規律や教師の人権意識などの向上を図りながら適切な指導を行い、生徒同士の言語活動の中で、自己を理解し、他者を思いやる心の育成を図る。		
		中：年間指導計画、単元計画の見直しを行い、学年やグループ間で実践と改善を繰り返しながら、生徒自身のステップアップをねらった学習活動を設定する。		
		高：生活年齢や生徒の実態を踏まえた言葉遣いや身だしなみ、基本的生活習慣の指導や性に関する指導を日生や保健体育、学年やグループ集会で計画的に実施する。		
		高：児童生徒課と連携し、SNSの使い方やいじめ防止に関する学習を学年・グループ集会、マイタイムで設定し豊かに人と関わり仲間と活動できる力を育てる。		
		高：適切な指導体制や授業のねらいや生徒の目標を共通理解できるよう、担当者との会議を設定し、授業を実施して振り返り改善に努める。		
肢体不自由教育部門	・児童生徒の「できる」「分かる」を目指した教育活動の充実を図る。 ・児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるための環境の整備を推進する。 ・交流的行事や情報発信等の取組を通した、地域社会とのよりよい関係を構築する。	小：児童のニーズに応じたICT機器の活用と、実態に応じた授業内容の検討を行うとともに、児童の「できる」を増やして児童の自己肯定感の向上を目指す。		
		小：安全な食事や医療的ケアの実施を含め児童が安全に過ごせるように、訓練の実施や他機関との連携に努める。		
		中：生徒が「できる」を実感する授業を行うためのICT機器を含めた支援機器の活用、および、PDCAサイクルによる授業改善と一貫性のある指導を行う。		
		中：教師が自身の言動に責任をもつことで人権意識を高める。また、中学部としての進路情報も含めた積極的な情報発信を行う。（知肢中学部合同での学年別進路懇談会実施）		
		高：生徒の実態やニーズに応じたICT機器の幅広い活用と、授業の充実を図ることを通して、生徒の「できる」を増やして自己肯定感の向上や進路実現を目指す。		
		高：生徒が安心・安全な学校生活が送れるように、摂食指導や医療的ケアの実施を専門家や関係機関と連携して実施したり緊急時対応の訓練等を行ったりする。		
事務部	・児童生徒が安全に安心して過ごせる環境作りを推進する。 ・児童生徒、保護者、地域の住民の視点に立った事務執行を行う。	教職員のニーズに応じ、速やか且つ適正な予算執行に努める。		
		教職員との連携を密にし、施設設備の不備を速やかに把握し、改善に努める。		
		事務執行にあたっては、特に保護者にとって、わかりやすい説明や工夫を心がける。		

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
	Ａ：適切である Ｂ：概ね適切である Ｃ：やや適切である Ｄ：不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた改善策

評価項目以外のものに関する意見